

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500101		
法人名	株式会社かしの木		
事業所名	グループホームかしの木		
所在地	東牟婁郡那智勝浦町天満1415-10		
自己評価作成日	令和4年11月17日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=3092500101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=3092500101-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和4年12月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気になるように心掛けています。  
 献立やおやつなどを利用者の要望を取り入れている。  
 利用者の健康維持のため医療機関との連絡を密にしている。感染症予防を強化している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該グループホームの命名は、那智勝浦町の町木である、「かし」から採られており、「かしの木のように地元に向かって根付きたい」との熱き思いが込められている。立地は、豊かな自然と生活の便利さが調和した、大変適切なものであり、近隣に民家も少なくない。常勤職員=4名、パート職員=9名、事務職員=1名という人員配置も手厚いものと言える。このグループホームは管理者自らが平成24年に創業し、11年目に至っている。「家庭的な雰囲気の中で心身の状態を緩和し、利用者本位の生活を支えていきたい」との思いを込めた手作りのグループホームであり、管理者は今でも「やってみて良かった」との感想を抱いている。グループホームとして入居者へのレクリエーションの機会を積極的に確保している。具体的には毎日30分間、トランプ、唄、脳トレなどを行っており、入居者の好評を得ている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の核心である家庭的な雰囲気の中で共同生活を行うことについては事業所の方針として職場の雰囲気を家庭的に保つよう指導し実行している。	理念は「少人数で家庭的な雰囲気の中で共同生活を行うことにより認知症の進行を緩やかにして心身の状態を穏やかに保つことを目的にしている」である。入居者による筆書きの書面が事務所とグループホームの玄関付近に掲示されている。	理念が入居者の目に付く、例えばリビングなどに掲示されていない。今後は入居者に分かりやすい表現や方法で、掲示されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りなどに協力し、利用者で参加希望の方は参加している。	当該地域には祭りが多く、「マグロ祭り」には寄付金を供出するなど、地域との連携に力を注いでいる。コロナ禍が緩和したら、様々な地域行事への参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学やご相談に来られた方には丁寧に認知症や、認知症の支援の方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催している。写真や資料を用意し分かりやすく報告している。指摘のあった点については次回までに対策を講じサービス向上に努めている。	区長、町役場職員、町社協職員及びグループホーム職員が参加し、定期的実施されている。入居者の状況や行事、防災対策、従業員の状況、事故、コロナ対策、看取りなどについて活発に議論されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町とは、常に連絡を密に取り、相談する事項のある時は指導をいただいている。運営推進会議にも参加していただいている。研修などにも参加している。	事故が起こった時などはいち早く町に報告し、指示を仰いでいる。事故をめぐって入居者側とトラブルになりそうな時も先手を打って町に報告し、必要な指示を受けている。過去には各種研修もあり、積極的に参加していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるだけ身体拘束に至らないよう努めている。ただ利用者の安全を図るため、必要最小限において、家族の同意のもとに拘束を実施している場合もある。その場合でも拘束が時間や状況の変化によって必要かどうか検証を続けている。	身体拘束を極力避けるように努めている。過去に一度だけ、家族の同意を持って入居者の安全を確保するために身体拘束とみなされ得ることを行った経緯がある。	切迫性・非代替性・一時性を満たしたやむを得ない身体拘束を行った場合の記録については、さらに充実したものと期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的人権を尊重する趣旨から自らの権利を十分に守れない方については制度が存在することを説明している。実際に制度が必要な方には、ご家族、当局と相談して制度が利用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族など不安なく理解が得られるよう説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えには真摯に耳を傾け、その人らしさを実現できるよう日々の生活を通して注意している。面会や電話などの機会をとらえてご家族などの意見要望には十分に配慮して運営を心掛けている。	日々の入居者とのかかわりの中で、小さな訴えも見逃さないよう、耳を傾けている。コロナ禍においても極力家族等とのつながりを断ち切ることなく、面会の機会を設け、その際の見解にも真摯に耳を傾けている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見については、意見を言いやすい職場を維持するよう努めている。また日誌に、記載する欄を設けており、意見を吸い上げるよう努力している。	介護日誌に「気づいた点」及び「改善点」の欄を設け、職員が自由に記述できるようになっている。(書類の点検では、実際に多くの書き込みがなされていた)介護の方法や入居者へのアセスメントなどについて、共有が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法規を遵守し、職員の能力や実績を十分把握し、ふさわしい待遇で処するよう最大の努力をしている。処遇改善交付金も申請して、処遇の改善に役立てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、職員のレベルに応じて研修を企画実施している。外部研修については職員のレベル希望などを考慮して機会を設けている。資格取得については奨励し、一定の援助を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修には、参加を奨励している。また職員がすでに持っているネットワークについては、サービスの質向上のため、利用させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活リズムを尊重して、徐々に慣れていただき、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を取り入れ、理解と協力を得られるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族のまず必要な支援が何かを把握し、初期対応において他のサービス利用も含めた検討が必要であるならご本人、ご家族に相談して検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者も支え合うような関係を目指し、利用者同士の助け合いを支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら情報を共有し、理解と協力を得られるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。	家族はもちろん、親類、友人らの面会も積極的に受け入れている。入居者本人が自宅で使っていた茶碗や箸、宗教関連の物(仏壇、十字架、聖書など)、写真などの持ち込みも奨励している。馴染みの美容室へは家族が連れて行く例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを早期に予防して、良い関係が維持出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご本人、ご家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通してご本人、ご家族の希望、意向とともに今までの生活リズム、人間関係を尊重し自立支援を心掛けている。	フロアにおける席順は男性・女性を問わず好みの形態とし、好評を得ている。入居者の意見をふんだんに取り入れながら、リビングに花や観葉植物を設置したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報に加え、ご本人、ご家族からの聞き取りにより、これまでの暮らしぶりを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録から、健康、食事、排泄、人間関係など、生活の中で変化がないか把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録に入居者の表情や行動など、気づきや、得た情報を共有し、ご本人、ご家族、職員と話し合い、介護計画を作成している。	介護計画には入居者ごとの心身の状態に配慮した具体的な介護方法が記載されている。	計画書の様式、個別計画のさらなる具体化とスタッフ間の共有、書類の体裁、計画書更新の要件の等の具体化等が今後期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録書に利用者の表情や行動などの様子から気付いたことを記入し情報を共有し実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援が行えるよう心掛けている。(受診や買い物など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の方の協力をいただいでご本人、グループホーム全体の向上に役立てている。(理髪師である家族の理髪ボランティア、地域の踊りのチームの演技など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する医療機関の受診、往診を支援している。ご家族が付き添えない方には職員が付き添い適切な医療が受けられるように支援している。	人工透析、認知症によるBPSD(行動・心理症状)への対応のための精神科、整形外科等への通院は事業所の職員が付き添っており、個別の医療対応が適切になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は捉えた情報や気付いた点を伝え、相談し健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早期に退院できるように、地域連携室や担当看護師と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に意向を確認し、事業所でできることを説明している。医師とも連携している。	「グループホームかしの木における重症化に関する指針説明書」という書面を使って、入居時に入居者及び家族に説明をしている。	左記書類について、さらにその体裁及び精度の具体化や緻密化を今後は期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の受講、緊急時対応マニュアルの作成で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して消防署立ち合いによる火災訓練を実施している。 常食や救命胴衣も準備している。	左記火災訓練はおおむね落ち着いて実施できている。救命胴衣については、現在は各居室に設置しているが、利便性を考えると、玄関先一括して設置の方が良いのでは、と検討がなされている。地域でも避難訓練が行われており、スタッフが参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように気を付けて、言葉使い、ケアをしている。	管理者自らが、入居者の気分を害することなく、丁寧過ぎず、礼節をわきまえた言葉使いを心がけており、スタッフも追随している。排泄誘導の際の声掛けは、羞恥心に配慮して特に慎重に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家庭的な雰囲気や大事にして、ご本人が自然に自分の思い、希望を表したり、自己決定できるような環境を維持するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の範囲の中で一人ひとりのペース、希望を大事にするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着たり、外出を増やし、おしゃれができるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も聞いて献立を決めている。後片付けの手伝いをしてもらっている。味付け、色合いにも気を配り、嚥下の難しい人には嚥下しやすい工夫をしている。	調理専門のパート職員がおり、大変美味で安価な食事提供が実現している。入居者がテレビの料理番組で見聞きし、希望するリクエストにも積極的に応えている。この他、郷土料理がメニューにのぼることもしばしばである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、各人に適した栄養状態が確保できるようにしている。また体調に応じて柔軟に食事は変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをもらい、できない方は介助している。本人の力に応じた口腔ケアをしていただけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し、タイミングよくトイレでの排泄ができるように支援している。	このグループホーム独自の排泄チェック表をフルに活用して、入居者ごとの排泄パターンを把握し、排泄の自立や少しでも気持ちの良い清潔な排便・排尿が実現するよう、努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、毎朝のヨーグルト、食物繊維の多い野菜などの摂取に気を配っている。便秘薬の必要な方は医師の指示のもとに便秘状況を見て服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分や体調によって時間や曜日を変更し、また洗浄方法も変えている。	一週間当たりの入浴回数は、入居者ごとに2回となっている。嫌がる入居者には無理強いせず、入浴形態も柔軟に行っている。皮膚の弱い入居者にはスタッフの手で石鹸を泡立ててそのまま手だけで洗うなどの工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に活動できるように一日の過ごし方を工夫し昼間はフロアにてテレビを観たり、会話を楽しくしたり、安眠できるリズム作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	仕分けの準備をし内服時再確認、飲み込み確認、内服後の確認をしている。体調の変化があれば医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴などから得意なことや好きなことを見つけて楽しんでいただけるように支援している。(折り紙、読書、歌など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方は花見に出かけたり、近くに散歩に行ったり、ご家族とお墓参りに行ったりしている。	外出を希望する入居者には、分散しつつ外出の機会の確保に努めている。※コロナ禍により外出の機会が減少している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や状態に応じて少額のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方はご家族や友人に手紙を出したり、電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すように季節の花を生けたり、飾り付けをしたり、利用者間の人間関係などを考慮して席の配置を変えている。照明、室内の温度、湿度を最適な調整を心掛けている。	季節の行事(クリスマス、アジサイの花)などの飾り付けを入居者とスタッフが作成し、リビングなどに掲示している。花火や桜、滝などを撮影した写真も掲示されており、入居者に好評を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする席の他に自由に座れるソファ、畳があり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった思い出のある品や馴染みの品、食器類、写真などを持って来てもらって、安心できるよう心掛けている。	入居者の特性やADLに合わせて、ベッドの位置を工夫している。入居者本人が自宅で使っていた茶碗や箸、宗教関連の物(仏壇、十字架、聖書など)、写真などの持ち込みも奨励している。(再掲)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は手すりを設置し、利用者が生活しやすく危険がないように心掛けている。		